

天神川の今後の工事にかかる説明会 (開催後の報告)

日時：令和6年6月12日(水) 19時から
場所：荒牧センター

当日の説明内容

1. 第4回天神川氾濫災害調査委員会の審議内容について

5月16日に行われた調査委員会で下記のことについて審議されたことを報告した。

(1) 残工事の施工方法

対策① 「仮設水路の通水断面の確保」

工事中はコルゲートフリュームにより通水断面を確保する。

対策② 「河床の遮水性」

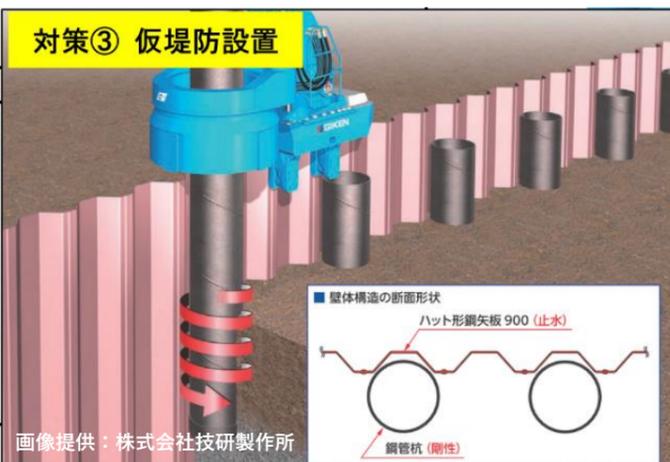
工事中は工事に支障がない範囲で遮水シートによる浸透対策を講じる。

対策③ 「堤防の安全性の確保」

工事の難易度を考慮し、万一に備え、仮堤防を設置する。

(2) 今後の安全な河川工事のあり方

- ・設計時の現場条件への配慮
- ・適切な施工管理への対応



※写真、図はイメージ

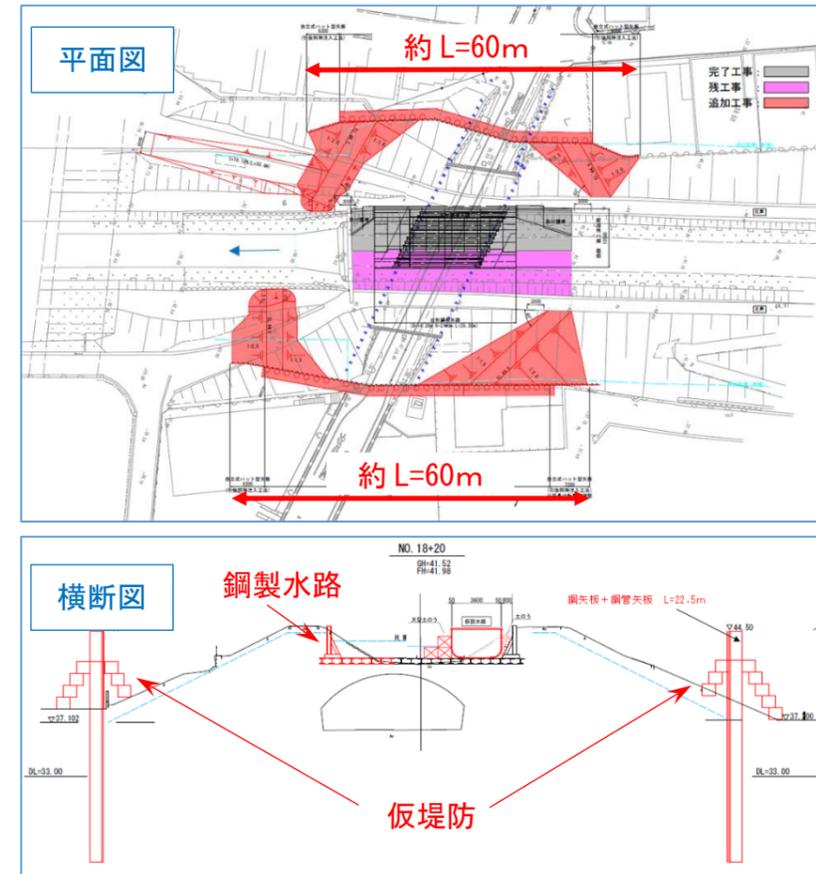
問合せ先

宝塚土木事務所 武庫川事業課
担当：松下 (0797-83-3188)

2. 今後の工事の再開について

(1) 工事の内容

今年度発注の工事について工事内容、範囲、施工方法を説明した。



【主な説明内容】

- ・トンネル工事の前段として河川を鋼製水路に置き換えるための工事である。
- ・調査委員会の提言を盛り込んだ施工方法とする。
- ・施工業者は7月末に決定見込みであるため、その後、改めて工事説明会を行う。
- ・仮堤防(矢板・鋼管)を施工時には騒音・振動が想定される。
- ・土ぼこりも出るが、散水するなどの対策を講じる予定。

※図面は変更になることがあります

(2) 工事の進め方 (工程)

上記工事の後、トンネル設置、堤防強化、仮締切撤去、道路構造物等の工事を行う。

従前は令和7年3月に工事完了としていたが、2年5か月遅れることとなり、令和9年9月に工事完了予定。



3. 説明会当日の主な質疑

(1) 仮堤防の高さはどれくらいになるか。

→河川の高さと同じ高さになる。道路面から4~7m程度となる。

(2) コルゲートフリュームの大きさはどれくらいの雨に対応できるか。

→過去10年間の非出水期(11月~5月)の最大降雨に対応できる大きさとしている。

(3) 堤防強化工事とはどのような内容か。→既設護岸が老朽化しており、護岸構造を更新するもの。

(4) 振動騒音が発生するのならば個別に住民に説明が必要では。→対象家屋については個別に対応する。

(5) 荻野では河床に草が繁茂しているが土砂が堆積し、流水の支障となっているのではないか。

→堆積の程度は少ない。洪水時には草が倒れるため流水の支障になるとは考えていない。